

# リハビリテーション学科 理学療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	11	日本語表現法
1年	16	現代の社会
1年	19	生物学
1年	21	健康スポーツ科学
1年	23	解剖学演習
1年	24・25	解剖学実習
1年	45	日常生活活動学
2年	55	歴史と文化
2年	56	暮らしの中の法律
2年	58	運動学演習
2年	59	内科学Ⅰ
2年	62	小児科学
2年	67	臨床心理学
2年	68	公衆衛生学
2年	70・71	理学療法基礎評価学Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	医療の現場においては、健康に問題を抱えるさまざまな年代の患者の方々と、日本語という言語を通じてコミュニケーションを図り、患者の方々が何を求めているかを適切に把握し、かつ医療側の方針を適確に伝達しなければならない。この講義では、正確な日本語の使用方法を身につけることができるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。									
回	授業計画				準備学修					
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
2	日本文の概要：現代文の成り立ち				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
3	日本文の概要：古典と文語文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
4	日本文の概要：現代文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
5	日本文の概要：現代文法つづき(品詞分類)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など 実践：課題文を書く(800字)…主題は当日指示				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
7	語彙1：辞書語彙…漢字と対義語・類義語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
8	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
9	文章の作成：作成要領、手順・構成、推論、推敲				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
10	敬語：種類と働き、尊敬語、謙譲語、丁寧語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
教科書	「原色シグマ新国語便覧(増補三訂版)」国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	特になし(適宜担当者が作成するプリントを配布する)									
備考	P T・O T合同授業 進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。授業内課題である課題文は、単位認定の必須事項として成績の主体となる。受講態度は、授業後の日本語表現法プリントの提出状況で判断する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	「現代の社会」導入(現代社会の誕生)				私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)					
2	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
3	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
4	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
5	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と選挙制度・世論)				前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
6	現代の経済社会(特に財政と金融)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
7	少子高齢化(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
8	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
9	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
10	国際社会と人類の課題(特に国際平和と日本の役割)				前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
教科書	「2020小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社									
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著(NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	P T・O T合同授業 板書を中心に進める。レポート作成を課し(含事後指導)、単位認定の授業内課題必須事項として成績に加える。 受講態度は、確認テスト解答送信で判断する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSC-01				
	●									
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等 (レポート)	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。理学療法士・作業療法士の専門科目を理解するための基礎知識を習得する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として、生物学の教養を深めるとともに、理学療法士、作業療法士としての専門・臨床科目における生物学の原理を理解できるようになる。									
学修者への期待等	理解できないこと、自分の認識と異なる講義などがあつたら授業中であっても質問してほしい。講師とのコミュニケーションを通して積極的に授業に参加してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	生物の分類				復習を心がけること (概ね30分)					
2	細胞Ⅰ(構造と機能)				前時配布のプリント(細胞Ⅰ「構造と機能」)の予習(概ね1時間)					
3	細胞Ⅱ(増殖と分化)				前時配布のプリント(細胞Ⅱ「増殖と分化」)の予習(概ね1時間)					
4	細胞Ⅲ(物質交換)				前時配布のプリント(細胞Ⅲ「物質交換」)の予習(概ね1時間)					
5	生体のエネルギーと代謝				前時配布のプリント(生体のエネルギーと代謝)の予習(概ね1時間)					
6	環境応答と神経伝達				前時配布のプリント(環境応答と神経伝達)の予習(概ね1時間)					
7	遺伝				前時配布のプリント(遺伝)の予習(概ね1時間)					
8	遺伝情報の発現				前時配布のプリント(遺伝情報の発現)の予習(概ね1時間)					
教科書	毎回プリント									
参考文献	「解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理」岡田隆夫著 羊土社									
備考	P T・O T合同授業 毎回授業の最後にミニツツペーパーの提出を求めます。また、課題レポートの提出を一度求めます。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSC-03				
	●		●	●						
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	三浦 雅史		授業内課題	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	健康であることは生活の質を上げるために不可欠な要素である。その健康を維持するために食生活とスポーツの重要性を説き、それを科学的に検証する。運動を通して健康増進や体力増進を行う知識と方法に関して、具体的なデータ等を使いながら学んでいく。また、生活習慣病と運動及び食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などについても具体的に学んでいく。									
到達目標	生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の維持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につなげることができるようになる。健康について理解し、説明できる。健康と運動・スポーツについて理解し、説明できる。									
学修者への期待等	今後学修する基礎医学や理学療法・作業療法の基礎となる科目です。予習・復習を期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	健康の定義、成り立ち、モデルについて -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（健康であるとはどういうことか？）を事前に読む。（概ね30分程度）					
2	生活習慣と健康について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（生活習慣と健康）を事前に読む。（概ね30分程度）					
3	心の健康とは？ 心の病について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（心の健康とは？）を事前に読む。（概ね30分程度）					
4	ストレスと健康の関連性 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（ストレスと健康）を事前に読む。（概ね30分程度）					
5	健康づくりのための政策 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（健康づくりのための政策）を事前に読む。（概ね30分程度）					
6	エイズ・性感染症 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（エイズ・性感染症）を事前に読む。（概ね30分程度）					
7	体力の概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（体力とは何か？、大学生の体力、体力の測定と評価方法、身体を知る、発育・発達）を事前に読む。（概ね30分程度）					
8	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（運動の意味を考える、運動の実際）を事前に読む。（概ね30分程度）					
9	代表的なスポーツ外傷・障害 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツ傷害）を事前に読む。（概ね30分程度）					
10	スポーツ現場での救急法、RICE処置 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（救急法）を事前に読む。（概ね30分程度）					
11	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。（概ね30分程度）					
12	スポーツとパーソナリティー -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目（スポーツとパーソナリティー）を事前に読む。（概ね30分程度）					
13	高齢者の健康づくりサークルの事例 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				LMS上にアップロードした講義資料を事前に読む。（概ね30分程度）					
14	健康的な減量（ダイエット）について考える -講義内容のグループワーク、レポート作成-				LMS上にアップロードした講義資料を事前に読む。（概ね30分程度）					
15	健康になるためには？スポーツの果たす役割は？ -講義内容のグループワーク、レポート作成-				講義時に、KJ法によるグループワーク・ディスカッションを実施しますので、過去の講義資料・レポートを事前に確認する（概ね1時間程度）					
教科書	電子教科書：「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和本書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業。必要に応じて、LMS上に参考資料をアップロードします。また、レポート提出もLMS上で実施しますので、講義時には必ずPCを持参して下さい。授業内課題のフィードバック：次週に実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-02				
	●	●		●						
科目名	解剖学演習				単位認定者	大友 篤		授業内課題 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (スケッチブック)	60 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	解剖学演習では、理学療法・作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。									
到達目標	1. 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、運動から体の動きをイメージできるようになる。 2. 骨格系・筋系・末梢神経系を学び、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができる。									
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。 理学療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	解剖学概論：命の尊さ、解剖学的用語 筋・骨格系序論：軟骨、骨組織、関節、筋組織、運動				「解剖学とは何か」、「人の命の尊さとは何か」を考えてくる。 (予習時間概ね1時間程度)			大和田 宏美		
2	胸骨、鎖骨、肩甲骨 グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
3	上腕骨、橈骨、尺骨、手部の骨 グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
4	腸骨、仙骨、座骨、大腿骨 グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
5	脛骨、腓骨、足部の骨 グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
6	脊柱の骨、肋骨 グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
7	頭蓋骨、顔面筋、頸部の筋、頸神経叢 グループワーク				授業計画に該当する骨・筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大和田 宏美		
8	体幹部・骨盤体部の筋、腰神経叢 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大和田 宏美		
9	大腿部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
10	下腿部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
11	前腕部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
12	肩甲帯周囲部の筋、腕神経叢 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
13	上腕部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
14	前腕部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
15	手部の筋 グループワーク				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)			大友 篤		
教科書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版」板井健雄・松村譲児監訳、医学書院									
参考文献	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」Helen J. Hislop、Dale Avers、Marybeth Brown著、津山直一・中村耕三訳、協同医書出版社 「図解 四肢と脊椎の診かた」S. Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 「人体の構造と機能」エレインN. マリープ著、第4版 医学書院 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著、第5版 医学教育出版社									
備考	A B別2クラス 解剖学で使用する教科書も使用します。 スケッチブック、色鉛筆を準備する。 授業内課題はスケッチブックの提出になる。スケッチブックに骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。スケッチブックは、骨学、筋学講義終了後に提出し、確認後スケッチブックを返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

理学療法士としての経験が豊富で解剖学を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-03				
	●	●		●						
科目名	解剖学実習				単位認定者	鈴木 裕治		試験(実技)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間	実習課題(レポート)
						授業回数	22 回			
授業の概要	理学療法・作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。解剖学実習では、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、各部位ごとに触診する技術を学修する。また、人体解剖見学実習では、御献体をとおして人体の構造を立体的に捉え、生命の尊厳を理解し、医療従事者としての自覚と倫理観を身につけることができるよう学修していく。									
到達目標	1. 身体各組織、器官の名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。 2. 体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管を触診できるようになる。 3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断に正しく応用できるようになる。									
学修者への期待等	身体構造や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体形態の異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げられるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学Ⅰの内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	各組織の触診方法・オリエンテーション				①事前配布資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認			鈴木 裕治 村上 賢治		
2	骨・関節の触診(肩甲帯)				①解剖学の肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
3	軟部組織の触診(肩甲帯)				①解剖学の肩甲帯の筋・靭帯の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
4	骨・関節の触診(上肢)				①解剖学の四肢の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
5	軟部組織の触診(上肢)				①解剖学の四肢の筋・靭帯の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
6	手部の触診				①解剖学の手部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
7	上肢の触診の確認				肩甲帯・上肢・手部の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
8	骨の触診(骨盤～大腿)				①解剖学の骨盤～大腿の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 村上 賢治		
9	骨の触診(下腿)				①解剖学の四肢の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
10	軟部組織の触診(骨盤～大腿)				①解剖学の骨盤～大腿の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
11	軟部組織の触診(下腿)				①解剖学の四肢の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
12	足部の触診				①解剖学の足部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
13	下肢の触診の確認				骨盤・下肢・足部の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
14	骨の触診(頭部・頸部)				①解剖学の頭部・頸部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		
15	骨の触診(体幹・骨盤)				①解剖学の頭部・頸部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 宮本 浩樹		

回	授業計画	準備学修	担当
16	軟部組織の触診（頭部・頸部）	①解剖学の頭部・頸部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 宮本 浩樹
17	軟部組織の触診（体幹・骨盤）	①解剖学の体幹・骨盤の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 宮本 浩樹
18	頭部・頸部・体幹の触診の確認	頭部・頸部・体幹・骨盤の授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 宮本 浩樹
19	血管・神経、その他身体組織の触診	①血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 宮本 浩樹
20	解剖実習に向けてのオリエンテーション	命の尊厳について考える。解剖学実習オリエンテーションの配布資料をよく読んでおくこと	東北大学 鈴木 裕治 宮本 浩樹
21	東北大学解剖学実習見学① グループワーク	配布資料、課題をよく確認のうえ、これまでの講義の復習を十分に行っておくこと	東北大学 鈴木 裕治 宮本 浩樹
22	東北大学解剖学実習見学② グループワーク	配布資料、課題をよく確認のうえ、これまでの講義の復習を十分に行っておくこと	東北大学 鈴木 裕治 宮本 浩樹
教科書	「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」改訂第2版、青木 隆明 監修、メジカルビュー社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」改訂第2版、青木 隆明 監修、メジカルビュー社		
参考文献	「骨格筋の形と触察法」河上敬介・磯貝香、大峰閣 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」（第2版）坂井建雄・松村讓児監訳、医学書院 「カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」Donald A. Neumann著、嶋田智明・有馬慶美監訳、医歯薬出版株式会社 「基礎運動学 第6版」中村隆一・齋藤宏・長崎浩著、医歯薬出版株式会社		
備考	A B別2クラス 触診を行えるよう、可能な限り裸出できる服装で授業に臨むこと 新型コロナウイルスの影響により、第21・22回の学外実習は現在調整中です。状況によって、第20・21・22回は学内での実習になる場合があります。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

この授業では理学療法評価、治療の実施の際、必須となる身体組織を触診し、その形状、長さ、硬さなどを同定する技術を学ぶ。当該教科担当者は臨床における十分な実務経験を有し、また触診、徒手療法などの研修会への参加も行っている。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-01				
		●	●	●						
科目名	日常生活活動学				単位認定者	森永 雄		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	日常生活活動(ADL)は、リハビリテーションおよび理学療法において重要な位置を占める。日常生活活動学では、ADLの概念やADL評価、国際生活機能分類(ICF)との関連性などの基本的なADLを理解する。また、ADLを支援する機器としての自助具や日常生活用具、歩行補助具や車いすなどの補装具の使用目的とその役割についても学修する。									
到達目標	【実践力】理学療法対象者のできる・しているADLを評価し、必要に応じて支援機器を提案することができる。 【人間関係力】発表機会を通して、他者の意見や考えを傾聴し、多様な考え方を理解することができる。 【地域理解力】受講を通して、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。									
学修者への期待等	・本科目の課題を通して、自己学修の習慣化に努めてください。 ・初学者に必要な知識の習得を重視するが、その枠を超えて実社会の問題にも目をむけて欲しい。									
回	授業計画				準備学修					
1	日常生活活動学の必要性 (ADL、IADL)				日常生活活動学の必要性について自分なりに考えてくること (概ね0.5時間程度)。					
2	国際生活機能分類 (ICF)				ICFについて予習・復習を行うこと (概ね0.5時間程度)。					
3	ADL評価 できるADL (BI)				BIについて予習・復習を行うこと (概ね0.5時間程度)。					
4	ADL評価 しているADL (FIM)				FIMについて予習・復習を行うこと (概ね0.5時間程度)。					
5	ADL評価 種々の評価法と適用				種々の評価法について予習・復習を行うこと (概ね0.5時間程度)。					
6	ADL評価のまとめ 【グループワーク】				これまでのADL評価について復習を行うこと (概ね2時間程度)。					
7	疾患別ADL 脳卒中片麻痺患者のADL				脳卒中片麻痺について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
8	疾患別ADL 整形外科疾患患者のADL				整形外科疾患について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
9	疾患別ADL 呼吸器疾患・心疾患患者のADL				呼吸器・心疾患について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
10	疾患別ADL 認知症患者のADL				認知症について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
11	疾患別ADLのまとめ 【グループワーク、発表、ディスカッション】				これまでの疾患別ADLについて復習を行うこと (概ね2時間程度)。					
12	ADL支援 住環境と車椅子				住環境、車椅子について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
13	ADL支援 自助具と日常生活用具、ロボット工学				自助具と日常生活用具について予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
14	ADL支援 種々の福祉用デザイン				福祉用デザインについて予習・復習を行うこと (概ね1時間程度)。					
15	ADL支援のまとめ 【グループワーク、発表、ディスカッション】				これまでのADL支援について復習を行うこと (概ね2時間程度)。					
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト ADL第1版」柴 喜崇著、羊土社 (2019)									
参考文献										
備考	A B 合同授業 授業特徴：大人数講義、ICT利活用教育 (LMS上で資料提示、課題資料回収を行う)。 授業内課題：受講者は、授業当日に出題した課題をLMSを通して提出する。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

①すべての医療関連施設(急性期病院、回復期病院、介護老人保健施設など)で”ADL介助”を行った経験を有すること。②大学院修士課程では、主に”基本動作の仕組み、介助”をテーマに研究してきたこと。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	OT	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	
							授業回数	
授業の概要	<p>こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。</p>							
到達目標	<p>(丸藤)近現代世界の形成上、重要な役割を持つ歴史事象について、社会・経済・文化の観点から各回主題を設けて講義する。主題に関する諸問題を理解し、近現代の世界に対する知識・理解・関心を深めることを目標とする。 (徳田)人間のみが持ち得る、歴史や文化、宗教を学ぶことによって、社会人、そして家庭人としても有用な、より深く、豊かな人間の理解を身に付けることを目標とする。</p>							
学修者への期待等	<p>授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。</p>							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	ユダヤ教について －律法の遵守－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
2	キリスト教について －罪からの救い－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
3	イスラームについて －神への服従－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
4	インドの宗教について －業と輪廻－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
5	仏教について －苦からの解脱－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
6	グローバルエコノミーのはじまり －西欧の拡大:地域間経済から世界経済へ－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させる。(約1時間)		丸藤 准二	
7	科学革命と啓蒙 －「知」の大転換と新しい「知」の広がり－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
8	産業革命 －人類史の分水嶺:工業化による経済・社会の変革－				配布したレジュメを中心に今回の授業内容を復習し、課題を完成すること。(約1時間)		丸藤 准二	
9	ビジネスの歴史・教育の歴史・医療の歴史 －諸制度の発展と近代社会－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－				今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)		丸藤 准二	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	<p>PT・OT合同授業          評価の方法について          (丸藤)授業内課題(各授業回での課題)100%          (徳田)授業内課題(チェック・テスト)100%</p>							

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学修力	地域理解力	CO-0-HSO-02				
	●			●						
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本 あゆみ		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。									
到達目標	法の基本原則や概念を理解し、説明できる。そして具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら結論を導くことができる。									
学修者への期待等	本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、法学の基礎				法学の基礎について、復習すること。(概ね30分程度)					
2	司法制度、法体系の概要				裁判所がどういったことを行っているのか、考えてくること。(概ね30分程度)					
3	憲法 憲法の基本				国民主権、基本的人権の尊重、平和主義が、どういった内容を有するのかについて考えてくること。(概ね30分程度)					
4	憲法 人権① 精神的自由				第3回の講義内容を復習し、基本的人権における精神的自由の内容には、どういったものが含まれていたかを確認してくること。(概ね30分程度)					
5	憲法 人権② 経済的自由				第4回の講義内容(人権①)を復習し、第4回の講義に臨むこと。(概ね30分程度)					
6	憲法 統治									
7	民法 財産法① 民法の基本原則				第2回の講義内容を復習し、民法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。(概ね20分程度)					
8	民法 財産法② 契約と不法行為									
9	民法 親族相続法									
10	刑法 罪刑法定主義など、講義のまとめ				第2回の講義内容を復習し、刑法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。(概ね20分程度)					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	末川博編「法学入門〔第6版補訂版〕」(有斐閣、2014年)、伊藤正己、加藤一郎編「現代法学入門〔第4版〕」(有斐閣、2005年)。その他については、初回の講義で案内する。									
備考	授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。 P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-08				
		●		●						
科目名	運動学演習				単位認定者	森永 雄		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	臨床場面において運動・動作分析を行うには、正常範囲の動作と運動についての解剖学や生理学、生体力学の知識が必要不可欠である。運動学演習では、正常な人間の動きを理解するために、姿勢、歩行、基本動作など実際に行われている動作や運動の観察と分析を行うことを学修する。									
到達目標	【生涯学習力】 自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図ることができる。 【実践力】 基本動作の仕組みと動作観察のための基礎知識を深めることができる。 基本動作に関して、専門用語を用いて他者に説明する能力を高めることができる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定教科書を用いて授業を進めるため、必ず指定教科書の持参をお願いします。</li> <li>授業内で自己の課題を明らかにし、解剖学・生理学・運動学の復習を行ってください。</li> <li>実技を行うことがあるので、動きやすい格好を心がけてください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修					
1	寝返り動作の概要				p30-49を事前に確認しておくこと（概ね1時間程度）					
2	寝返り動作の仕組み				p30-49の内容を基に、運動解剖生理学の復習を行うこと（概ね1時間程度）					
3	起き上がり動作の概要				p82-97を事前に確認しておくこと（概ね1時間程度）					
4	起き上がり動作の仕組み				p82-97の内容を基に、運動解剖生理学の復習を行うこと（概ね1時間程度）					
5	寝返り・起き上がり動作の発表				1-4回までの授業回を復習すること（概ね2時間程度）					
6	立ち上がり動作の概要				p122-136を事前に確認しておくこと（概ね1時間程度）					
7	立ち上がり動作の仕組み				p122-136の内容を基に、運動解剖生理学の復習を行うこと（概ね1時間程度）					
8	立ち上がり動作の発表				6-7回までの授業回を復習すること（概ね2時間程度）					
9	歩行計測（10m歩行とTUG）				10m歩行とTUGについて調べてくること（概ね0.5時間程度）					
10	歩行動作の概要				p168-192を事前に確認しておくこと（概ね1時間程度）					
11	歩行動作の仕組み				p168-192の内容を基に、運動解剖生理学の復習を行うこと（概ね1時間程度）					
12	歩行動作の発表				10-11回までの授業回を復習すること（概ね1時間程度）					
13	階段昇降動作の概要				LMSに掲載された資料を確認すること（概ね1時間程度）					
14	階段昇降動作の仕組み				LMSの掲載された資料を基に運動解剖生理学の復習を行うこと（概ね1時間程度）					
15	階段昇降動作の発表				13-14回までの授業回を復習すること（概ね2時間程度）					
教科書	「動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」石井慎一郎編著、メジカルビュー社									
参考文献										
備考	授業特徴：A B別2クラス、アクティブラーニング、一部ICT利活用教育（LMS上で資料提示、課題資料回収を行う） 試験（筆記）：授業内で取り扱った範囲までを試験範囲とする。 授業内課題：授業中に出された課題の取り組みを採点対象とする。 受講態度：発表時の取り組み態度や質疑応答などの様子を採点対象とする。 遠隔授業に伴うクラス編成変更あり：1～6回 A B合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

運動学に関する知識が豊富であり、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-03				
		●		●						
科目名	内科学 I				単位認定者	小笠原 鉄郎		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	授業内課題 (レポート)
							授業回数		15 回	
授業の概要	内科学Iに関する症候、診断、治療学について総論的に学ぶとともに、内科学Iでは、臓器別の疾患の理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で療法士として知っておくべき基本的知識を身につける。									
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために1) 医学用語を間違いなく読みかつ書け、意味を理解し正しく表出できること。2) 各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する(疾患の全身に及ぼす機序を理解する)。3) 国家試験に備え知識を整理する。									
学修者への期待等	内科学Iでは、担当者は事前に割り当てた教科書の各単元の重点個所について受講前に読み込んでおくこと。授業中にスムーズに輪読(担当箇所を音読)でき医学用語(英語の読みも含む)を正しく使用できるようになることを期待する。同時に担当者に口頭での質問を行い理解度を評価する。各単元毎の小テストと共に最終評価に加算される。									
回	授業計画				準備学修					
1	内科学 概念 診断学				教科書を読み概略をつかんでおく。					
2	症候学				教科書を読み概略をつかんでおく。					
3	循環器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。 特に心電図診断について					
4	循環器疾患2 各論 ミニテスト①				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に心筋梗塞 不整脈 心臓リハについて					
5	呼吸器疾患1 総論(症状・診断)				教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について					
6	呼吸器疾患2 各論 ミニテスト②				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に閉塞性肺炎 肺炎 肺癌 呼吸リハについて					
7	消化器疾患1 総論 消化管疾患				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に食道癌 胃癌 大腸癌について					
8	消化器疾患2 肝胆膵・腹膜疾患 ミニテスト③ ミニテスト④				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に肝硬変について					
9	血液疾患 ミニテスト⑤				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に貧血の分類について					
10	代謝疾患 ミニテスト⑥				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に糖尿病 メタボリック症候群 酸塩基平衡について					
11	内分泌疾患 ミニテスト⑦				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に下垂体、甲状腺、副腎疾患の症状について					
12	腎泌尿器疾患 ミニテスト⑧				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に腎不全について					
13	免疫疾患 ミニテスト⑨				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に慢性関節リウマチ、SLEについて					
14	感染症 ミニテスト⑩				教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に代表的な細菌性疾患 ウイルス性疾患について					
15	総括									
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学」前田眞治編、医学書院									
参考文献	各専門分野の学会ホームページで提供している一般市民向けの疾患についての解説、ガイドラインなどが参考になる。 (日本循環器学会 日本呼吸器学会 日本消化器病学会 日本糖尿病協会など) 講義の前に各学会などのURL リストを配布する。									
備考	P T・O T合同授業 1) 各自に割り当てられた担当箇所を授業内課題としてレポートを提出。 2) 各単元毎に小テストを実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-05				
		●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	55 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	25 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患の理解を図る。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児科学とは				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患				【事前】胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態を理解しておく。（概ね1時間程度）					
3	免疫・アレルギー疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
4	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）					
5	呼吸器・循環器疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（概ね1時間程度）					
6	消化器・内分泌疾患				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。（概ね1時間程度）					
7	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）					
8	腎・泌尿器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
9	神経・筋・運動器疾患				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
10	重症心身障害・精神疾患・心身症・虐待				【事前】障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）					
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」 富田 豊 編集、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-1-D&R-09			
		●		●					
科目名	臨床心理学				単位認定者	北川 公路		試験(レポート) 80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度 20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。								
到達目標	心理学の知識を修得して保健医療領域において支援を必要とする人々について理解できるようになること、適切な支援ができるようになることが目標である。								
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 授業2～5回の授業内容は、各専攻の評価学で学ぶものと重なる部分が多くあるため知識を繋げる								
回	授業計画				準備学修				
1	リハビリテーションと臨床心理学				教科書第1章(臨床心理学とは) P. 8～14を読む。 (概ね1時間程度)				
2	心理アセスメント① 面接・観察				教科書第4章(臨床心理検査) P. 52～64読む。 (概ね2時間程度)				
3	心理アセスメント② 質問紙形式の心理検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 66～71を読む。 (概ね2時間程度)				
4	心理アセスメント③ 作業形式および投影法による心理検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 71～87を読む。 (概ね1時間程度)				
5	心理アセスメント④ 知能検査				教科書第4章(臨床心理検査) P. 64～66を読む。 (概ね1時間程度)				
6	発達臨床心理学				教科書第3章(臨床心理学を学ぶ上での基礎知識) P. 45～49を読む。 (概ね1時間程度)				
7	心理療法の理論と実際① 精神分析・行動療法				教科書第3章(臨床心理学を学ぶ上での基礎知識) P. 32～44、第5章(臨床心理面接) P. 92～106を読む。 (概ね1時間程度)				
8	心理療法の理論と実際② 認知行動療法・来談者中心療法				教科書第5章(臨床心理面接) P. 106～113を読む。 (概ね1時間程度)				
9	心理療法の理論と実際③ その他の心理療法				教科書第5章(臨床心理面接) P. 113～134を読む。 (概ね2時間程度)				
10	障害の適応と受容・まとめ				予め配付する資料を読む。(概ね1時間程度)				
教科書	「こころのケア -臨床心理学的アプローチ-」池田勝昭 他 編 学術図書出版社								
参考文献	授業時に随時紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-03				
		●		●	●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	鈴木 寿則		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生は集団レベルの健康を取り扱う。その領域は、対人保健(老人・母子・学校・職域)、対物保健(生活環境・食品衛生等)および環境保健(環境保全・公害)など多岐にわたっている。本講義では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動(対人保健・対物保健、環境保健など)およびその基盤となる保健・医療・福祉制度(関係法規、衛生行政等)の概要について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代における「健康」の意義について説明できる。</li> <li>2. 疾病予防と健康増進の考えを習得し、現在の各保健活動について説明できる。</li> <li>3. 健康と運動・食事などの関連を説明できる。</li> <li>4. 理学療法士の業務を公衆衛生学的観点から説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	教科書を中心に板書を行いますので、各自ノートなどを用意してください。また、講義の復習として、自分のノートをもとに、調べた内容を書き込むなどしてください。予習としては、日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	公衆衛生学の概念、公衆衛生学の歴史について				教科書p. 1～8 (第1章公衆衛生学序論1. 健康の概念～2. 公衆衛生の概念) を読む (概ね1時間程度)					
2	国際保健の概念、公衆衛生関係法規について				教科書p. 9～24 (第1章公衆衛生学序論3. 公衆衛生・予防医学の歴史～第2章国際保健) を読む (概ね1時間程度)					
3	公衆衛生活動と法規の関係について				教科書p. 24～32 (第2章国際保健3. 人口・保健医療に関わる主な国連機関～第3章行政の仕組みと公衆衛生関連法規3. 衛生法規の定義と内容) を読む (概ね1時間程度)					
4	保健統計の種類と概要について				教科書p. 33～39 (第3章行政の仕組みと公衆衛生関連法規4. 公衆衛生活動関連法規～第4章保健統計1. 保健統計の概要) を読む (概ね1時間程度)					
5	死亡統計と傷病統計について				教科書p. 39～54 (第4章保健統計2. 人口動態統計～5. 傷病統計) を読む (概ね1時間程度)					
6	疾病予防と疫学の関係、疫学の考え方について				教科書p. 54～62 (第4章保健統計5. 傷病統計～第5章疫学1. 疫学の概念) を読む (概ね1時間程度)					
7	疫学の研究デザイン (コホート研究、症例対照研究)				教科書p. 62～79 (第5章疫学2. 疫学で用いられる指標とバイアスの制御～4. スクリーニング) を読む (概ね1時間程度)					
8	がんと循環器疾患の疫学統計および予防について				教科書p. 80～85 (第6章疫学研究の評価と倫理) を読む (概ね1時間程度)					
9	糖尿病と感染症の疫学統計および予防について				教科書p. 86～95 (第7章疾病予防と健康管理1. 健康に関連する行動と社会) を読む (概ね1時間程度)					
10	精神保健の概要について				教科書p. 96～106 (第7章疾病予防と健康管理2. 生活習慣病のリスク行動～3. 健康増進行動) を読む (概ね1時間程度)					
教科書	「衛生・公衆衛生学 社会や環境システムと健康の関わり (2020年発行・最新版)」山本玲子編、株式会社アイ・ケイ コーポレーション									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-02				
		●	●	●						
科目名	理学療法基礎評価学Ⅱ				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	50 %
						授業時間数	60 時間		授業内課題 (レポート)	10 %
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	理学療法基礎評価学Ⅰに続き、基本的な理学療法検査・測定の意義や目的、検査・測定方法について学修する。 理学療法基礎評価学Ⅱでは、感覚検査や反射・筋緊張検査、協調運動機能検査などの基本的な検査・測定を中心に、中枢神経系理学療法学へとつなげていく。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害および中枢神経疾患に対する各種評価が実践できるようになる。</li> <li>運動器障害および中枢神経疾患症例の諸症候についてPT的視点で分析できるようになる。</li> <li>運動器障害および中枢神経疾患症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。</li> <li>臨床においても検査手技や問題に対する分析能力が向上するために学修努力が必要であることを理解できるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して望むこと。</li> <li>講義内でのグループ学修を主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。</li> <li>講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	運動器障害における理学療法評価総論							佐々木 広人 遠藤 康裕		
2	アライメント評価 静的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
3	アライメント評価 動的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
4	健常者を対象としたアライメント評価と臨床推論の実際				グループワーク・発表準備(概ね1時間)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
5	上肢運動器系の検査 肩関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 肩関節」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
6	上肢運動器系の検査 肘関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 肘関節」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
7	上肢運動器系の検査 手関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 手関節」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		
8	下肢運動器系の検査 股関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股関節」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
9	下肢運動器系の検査 股関節・膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股・膝関節」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
10	下肢運動器系の検査 膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 膝関節」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
11	下肢運動器系の検査 足関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 足関節」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
12	脊柱・骨盤の検査 腰部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
13	脊柱・骨盤の検査 腰部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
14	脊柱・骨盤の検査 仙腸関節				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 仙腸関節」の予習復習(概ね30分程度)			遠藤 康裕 佐々木 広人		
15	まとめ・症例検討の進め方(臨床的な思考過程について)				配付資料の「まとめ」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 遠藤 康裕		

回	授業計画	準備学修	担当
16	中枢神経疾患における検査の目的と意義 (LMSによる遠隔講義)	講義内容を確認するため、シラバスを持参すること。生理学等で学んだ神経系の知識を復習しておくこと (60分)	小関 友記 大橋 孝子
17	意識障害の評価、認知機能検査 (LMSによる遠隔講義)	教科書①p210～222 (特にJCS)、教科書②p71～76のHDS-R・MMSEについて予習すること (30分)	小関 友記 大橋 孝子
18	筋緊張検査・反射検査 (LMSによる遠隔講義)	教科書①p62～69、p126～p141について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
19	感覚検査 (感覚概論、表在覚、深部覚) (LMSによる遠隔講義) ※20⇒19	教科書①p142～173について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
20	筋緊張検査・反射検査 (実技) ※19⇒20	筋緊張・反射について小テストを実施するため準備すること	小関 友記 大橋 孝子
21	感覚検査 (実技)	感覚について小テストを実施するため準備すること	小関 友記 大橋 孝子
22	中枢神経運動麻痺概論・ブルンストロームステージ	教科書①p70～73、教科書②p351について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
23	運動麻痺に関わる諸検査 (上田式12段階など)	ブルンストロームステージについて小テストを実施するため準備すること。	小関 友記 大橋 孝子
24	協調運動障害 (失調) 検査 (講義及び実技)	教科書①p174～189、教科書②p251～p260について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
25	座位・立位・歩行の評価 (講義及び実技)	教科書①p110～125について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
26	姿勢反射 (講義及び実技)	教科書②p227～239について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
27	バランスパフォーマンステスト (講義及び実技)	教科書②p239～250について予習すること (30分)	小関 友記 大橋 孝子
28	脳卒中機能評価 (SIAS・Fugl-Meyer・NIHSS・Motor Assessment Scale)	教科書②p352～358について予習すること (30分)	小関 友記 大橋 孝子
29	脳神経検査 (講義及び実技)	教科書①p8～61、教科書②p65～70について予習すること (60分)	小関 友記 大橋 孝子
30	実際の症例に対する検査測定の意味	これまで講義で学んだ検査測定全般について復習しておくこと (60分)	小関 友記 大橋 孝子
<b>教科書</b>	①神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 鈴木則宏編集、MEDICAL VIEW ②PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第1版下田信明他編、羊土社 (1年次購入済み)		
<b>参考文献</b>	「PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査」伊藤俊一監修、三輪書店 「運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ・Ⅱ」David J. Magee、エルゼビア・ジャパン 「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」市橋則明、文光堂 「図解理学療法検査・測定ガイド」第2版 奈良勲、内山靖、文光堂		
<b>備考</b>	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課すことがある 遠隔授業に伴うクラス編成変更あり：1～6回、16回～21回 A B合同授業		
<b>実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>			
科目担当者は、理学療法学全般に関する評価及び治療の実務経験を有する。			